

Title	『セメント樽の中の手紙』のドイツ語訳を作成して
Author(s)	Schäfer, Charlotte
Citation	多言語翻訳 : 葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』 . 2013, p. 63-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61321
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2015年2月13日

『セメント樽の中の手紙』のドイツ語訳を作成して

シャロツテ・シェッフアー

今回、ドイツ語の翻訳は、クレメンス・シェッフアー、アイリーン・ハーゲ、中山耶、及び、筆者の4名のグループで、この翻訳を行いました。以下、作業にあたって難しく感じた部分を中心に述べていきます。

まず、「セメントあけ」と言い回しですが、「あけ」の言葉はひらがなで書かれており、空ける、つまり空にするか、開ける、つまり開くという意味でつかわれたかが、すぐには判断できませんでした。グループの中には、「セメント樽を開ける」、または「ミキサーを空ける」という意味で理解した人もいました。解説がなければ、この部分について違う理解をしてしまったかもしれません。

次に、難しく感じたのは、「弁当箱」という言葉です。お弁当は日本特有のものなので、ドイツ語に翻訳することが難しいです。確かに、「Brotdose」、つまりパンを入れる箱という言葉はありますが、意味は少々違います。そこで、この言葉については、ローマ字で「Bentō-Schachtel」とローマ字で表現し、脚注を付けるかたちを採用しました。

女工の手紙の部分では、クラッシャー、^{ふんさいとう}粉砕筒と弾丸など、セメント工場の専門用語が頻繁に出てきます。セメント工場のことについて知識のない私たちは、ドイツ語で適切な用語を用いるため、調査する必要がありました。ただ、技術の進歩などもあり、小説が著作された当時と現在のセメント工場の機械とは大きく異なっている可能性が高いので、今回、翻訳で用いた言葉が正しかったかどうかについては、確信が持てずにいます。

最後に言及したいのは「あの人はどんなに私を可愛がって呉れたか知れませんでした。」という文章です。この文章は、いくつかの意味に解釈できると思います。20年前に出版されたドイツ語翻訳においては、「あの人がどれほど私を愛していたかは、わかりません（知ることができない）」と訳されていました。しかし、文脈を見ますと、この翻訳は誤訳だということがわかります。ここは、亡くなったセメント工場の労働者が、自身をととても愛してくれたと、女工が振り返る場面です。ですから、私たちの翻訳では次のように解釈しました。「あの人がどんなに私を愛していたということが筆舌に尽くしがたい。」

なお、私たちが調べた範囲ですと、「プロレタリア文学」はドイツ語には存在しないようです。今回、日本語のプロレタリア文学の短編小説をドイツ語に翻訳することは、難しく、また同時に非常に興味深かったです。

最後に、グループで翻訳することについて、一言したいと思います。多人数のグループで翻訳すると、参加者の間のコミュニケーションをとるのが難しいという問題があります。また、翻訳は、一人ひとりのスタイルが違いますので、全員が満足できる翻訳はほとんど不可能だとも感じました。今回、4名で翻訳をしましたが、今後、こうした翻訳プロジェクトが企画される場合、2名以上のグループで翻訳を担当するのは、避けた方がよいのではないかと思います。